

家庭教育通信

1年生になったら 5

第65号 平成31年3月11日発行

～「小学校」に行くということ～

春からは決められた時間で動く学校へ…。わが子に本当にそんなことができるのだろうか。名前は書けるけど、まだ字が読めない。隣の〇〇ちゃんはもう足し算ができるらしいのに、わが子はまったく興味が無いみたい。

子を思う親の心配は当然のことですが、心配するがゆえにいろいろと口出ししてしまうと、こどもに「不安感」を与えることにもつながります。「なるようになる」くらいの大きな気持ちで向き合えるとこどもにとってちょうど良いのかもしれませんが。

幼稚園や保育所では、直接的な教科教育は行わないことになっており、生活や遊びを通して、こどもの読み書き計算への興味や関心、意欲を育てようとしています。当然それは個人差が大きくなりやすいところでもあるので、小学校ではどの子も標準的な学力を身に付けられるようにカリキュラムが組まれています。

こどもの中に新しいことを学びたいという気持ちや意欲が育っていれば、入学時の学習の遅れはあまり問題にはなりません。この時期のできる・できないは、「どんぐりの背比べ」で、じきに追いついてしまうことがほとんどです。

こどもが読み書き計算を学ぶうえでは、就学前の心と身体の「発達」が土台になります。思い切り身体を使って動いたり、友達とたくさん遊んだり、「やりたい遊び」に没頭する経験が、豊かな発達を支えています。また、さまざまな遊びの中で、文字や数字に興味を持つ機会はやってきます。

発達と学習を支える「安心感」

小学校に入学した当初はそれまで当たり前だった生活システムが変化するため、親もこどもも戸惑うことは当然です。でも、こどもたちは自分なりに変化に向き合いながら成長していきます。

こどもがのびのびと学んでいくためには心と身体の発達がとても大切です。そして、その発達を支えるのは「自分は愛されている」という「安心感」です。こどもの安心感を育むことができるのは親の愛情です。こどもの気持ちにしっかりと寄り添って、小学校入学までの日々を大切に過ごしてほしいと思います。

庶務課社会教育担当
Tel (3647) 9676